



真宗高田派本山 専修寺

高田 本山だより | 144

令和7年冬号



高田本山 HP

令和7年冬号（第144号）/発行・令和7年12月1日/〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp



仏教保育合同参拝で、ことしも秋空高く風船が放たれました。



仏教保育合同参拝で、園児による献花、献灯、
献香が行われました。

冬の深まりを感じる季節となりました。仏教保育の合同参拝が盛大に執り行われ、大勢の園児たちが一堂に会しました。子どもたちの純真な笑顔と、仏さまに見守られて手を合わせる姿は、私たち大人に大切な教えを改めて思い出させてくれます。風船がどこまでも高く昇っていくように、子どもたちが仏さまの慈悲の心に包まれ、感謝の気持ちを忘れず、それぞれの未来へと羽ばたいてくれることを心より願っています。

「いい天気、悪い天気も自分の都合」



今年の夏は例年より暑く感じ、暑さが十月頃まで続いた気がします。十一月に入ると一気に冷え込み、少し前までは早く涼しくならないかなと思っていたものがすぐに早く暖かくならないかなと変わりました。

十月の終わりごろには雨が多くなり、外に出る時も傘を持たないといけないので荷物が増えたり、雨に濡れたり、嫌な天気が続きました。自分は文句ばかり言っているなと思った時、昔学校に通っていた頃、毎日通るお寺の掲示板に「いい天気、悪い天気も自分の都合」と書いてあつたことを思い出しました。

暑さ、寒さ、雨の日は私の都合によつてできた悪い天気でした。私は

の横の家に住んでいる人はもしかするとその天気を喜ばれていたかもしれません。

雨がないと草木は枯れてしまいますし、冬の寒さがないと植物は次に強く育つことが難しいそうです。

本質をみれば、良い悪いなんて無いものをどうしても自分の都合で見てしまう私に気付かされました。

この私の有り様に気づかれ、御開山親鸞聖人は『高僧和讃』の中に「煩惱にまなこさへられて 摂取の光明みざれども大悲ものうきことなくてつねにわが身をてらすなり」というお言葉をお書きになられました。

して物事を見てしまうばかりに、物事をありのままで見ることができません。

阿弥陀様のお救いの光にも気づくことができません。

しかし、阿弥陀様は絶えることなく私を大いなる慈悲の心で照らし続けてくださるのであります。

私たちが生きる上でどれほど気を使つてもこの色眼鏡は外れることはありません。

どうしても、自分の都合で物事を見てしまい、私は、自分の人生ですから自分の都合で生きたくなるのは当然の事だと思います。

ですが阿弥陀様の有り様を知った時、自分の行動を思いかえして、自分の都合で見てたなど考え方が変わったのかなと思いました。

三重県第十組

延寿寺衆徒富山翔眞

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075) 371-0854・8181～2番
FAX (075) 344-2701番
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年



松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘
執行役員支店長 野村守宏
本社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

お 莊 香 嚴



羽織ればその人に香りが移るよう
に、本願の智慧に薰ぜられた名号を
「南無阿弥陀佛」と称える者には智
慧の功德が移り必ず往生する者にな
ると仰っています。

佛事一般にお香は欠かせません。

お参りでも焼香をすることが当たり前となっています。その作法についてあちこちで紹介されていますので、ここではそもそもお香って何のためにあるのかを尋ねて参ります。

よい香りが満ち、その香りを嗅ぐものは佛道に励むようになるとあります。つまりお参りの際にお香が焚かれるのはその香りでもつてお淨土の世界を模し、お灯りやお花のように佛さまの功德を表す要素のひとつとして尊ぶ心の表れなのでしょう。

さて、親鸞聖人にとってお香とは
どのような意味をもつたのでしょうか
か？ご和讃に尋ねてみましょ。

は古く釈尊在世の頃、多くの弟子たちが釈尊のもとに集い教えを聞く場

において、お互いの体臭などに気が
散らないよう香りのよい木（香木）
を焚き芳香を満たして說法に集中さ

これをすなわちなづけては
こうこうしょうごん
香光莊巖ともふすなり

(大勢至和讚六首)

「染香人」とは香りが身に染みて
いざつゝ、へり一二二、うふうう

やがて日本には佛教とともに大陸より伝わり、佛さまへの供養として儀式には欠かせないものとなりました

お香の功德はお経にも説かれ、無む
量寿経にはお淨土の世界には常に
りようじゆきよつ

かくわしい人のことで、お念仏の
信者をたとえたものです。法然上
人は阿弥陀如来の名号にははかり
知れない功德が備わつていて、そ
れは丁度お香に薰じられた衣を

んな救いようもない私をそのまま香りで包み込むように南無阿弥陀佛がはたらいてくださるのです。そうしたあたりようを親鸞聖人は「香光莊嚴」と讃嘆され、この私が救われる道理をお香の特性に譬えていただ

(教学院第三部会)

伝統を引き継ぐ左官職人舎
左官舎
Sochikusya Co.,Ltd

伝統的な社寺建築、古民家や一般住宅・店舗の修繕、リフォーム、リノベーションなど、自然素材を活かした壁や空間を提案します。

建築工事 / 工事 / 外構工事 / 現場施工管理

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusha@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

法衣・仏具製造及び販売

代表取締役社長 今岡規代
●本社
600-84668
東京都新宿区四谷
111 桜町四番地111
Tel 03-3358-1500
Fax 03-3359-8902

オンラインショップはこちらから →



井筒法衣店



「燈炬殿だより」

令和八年お七夜特別展観

「高田のはじまり～ふたつの専修寺」について



顕智上人 御名号

恩講まであと一ヶ月余りとなつて参りました。宝物館燈炬殿では、過去にお七夜に合わせて、

私事になりますが、先日福井県勝山市にある県立恐竜博物館運営協議会に出席しました。協議会終了後の雑談の中で、県のPTA連合会の代表委員の女性から、高田短期大学の名称について尋ねられました。三重県津市には、真宗高田派本山専修寺という寺院があり、このお寺の関係の皆さんのが設立・運営されている短期大学ですよとお伝えしました。また、私自身、本務は、専修寺宝物館「燈炬殿」の館長であることもお伝えしましたところ、実は、私は他宗派から、高田派の檀信徒のおうちに嫁いだのですよ、とのお返事。そこで、高田派は、親鸞聖人のお弟子さんによつて受け継がれている宗派

であること、私たちは生きている間からすでに阿弥陀仏の救いのはたらきによって見守りいただいていること、またそのことに感謝の気持ちをこめて南無阿弥陀仏と称えることなど、門前の小僧習わぬ経を読む式に伝えました。すると、なるほど深い教えの教団なのですねと、高田派のお家に嫁がれたことを喜んでおられました。親鸞聖人とは、まったく無縁と思っていた恐竜博物館で、このように出会いがあることに驚くとともに、ご縁というものが深さに思いをいたしました。

さて、師走の声を聞くこの頃、宗祖親鸞聖人のご往生の日である一月十六日までの七昼夜の期間勤めら



本寺 如来堂



「伝統～燈火を伝える歴代上人」、「絵伝でたどる高田のものがたり」とお七夜特別展観を開催してまいりました。

令和八年で三回目となるお七夜特別展観は「高田のはじまり～ふたつの専修寺」というタイトルで、一月九日より二月十五日まで開催いたします。

ご案内のように、真宗高田派には、三重県津市一身田にある本山専修寺、栃木県真岡市高田にある本寺専修寺と、ふたつの専修寺があります。親鸞聖人は流罪を赦された後、真仏上人らとともに関東で教化活動を行われましたが、その拠点となつたのが

栃木の本寺専修寺です。



本寺 三谷草庵

言い伝えによれば、「聖人は下野国芳賀郡大内庄柳島（現在の栃木県真岡市）において平石の上でお念佛して一夜を明かされていた。そのとき手に柳の枝と白い薄絹の包みを持ったひとりの童子が現れ、『私は明星天子。本地は極楽の聖衆虚空藏菩薩である。あなたに伽藍の靈地を示すため、ここにやつて来た。早く伽藍を建立し、この柳の枝と菩提樹の実を植えなさい』と言った。聖人は『この地は水田となつていてどうやって伽藍を建てるのか』と問うが、童子はまだまつて水中へと飛び込んでいった。聖人はためしに受け

このときからこの地を“高田”と呼ぶようになつたと伝えられております。栃木の専修寺は、親鸞聖人の関東での教化活動の中心であり、高田派の名の由来を伝える寺院として、真宗高田派において非常に重要な存在です。

令和五年五月、本山で勤められた奉讚法会にあわせて、三重県総合博物館では、特別展「親鸞聖人と真宗高田派本山専修寺～専修寺国宝からひろがる世界～」が開催されました。その前年に、本寺において出陳の品々についての打ち合せがおこなわれましたが、私も同行する機会を得ました。

凜としたたたずまいの本寺を初めて参拝したあとに本寺から少し離れた場所にある、親鸞聖人が一時お住まいになつたと伝わる三谷の草庵に

取つた柳の枝を水田に指し、菩提樹の実を平石のそばに植えて、また平石の上戻られた。夜が明けると、不思議なことに先ほどの柳と菩提樹は一夜にして大きく育つて枝葉はあちこちにしげり、水田は中央が突き出でて高く堅い地盤となつていた。

もご案内いただきました。質素ながらも、自然豊かな山裾にたたずむその草庵は、聖人が教えを深められるにふさわしい静かな環境であり、そこで聖人が思索を重ねられた情景を思い描き、感銘を受けました。

令和八年お七夜特別展観「高田のはじまり～ふたつの専修寺」では、

まず、本寺のご厚意でご出陳いただいた親鸞聖人座像、親鸞聖人絵伝に加え、本山の真仏上人、顯智上人像を展示し、本寺で教化を共にされた親鸞聖人、真仏上人や顯智上人のご遺徳を偲んでいただきます。また、本寺と本山の古地図等を通して、ふたつの専修寺をより親しく感じていただければと考えております。さらに、お七夜に拝読される式文などの典籍、お七夜に用いられるお飾りである提灯なども展示いたします。

これらの法寶物をご覧いただきながら、高田派の草創期に思いをはせ本寺の情景を思い描いていただければ幸いです。

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

お話をうながす小僧が信や
「プロモーション」をサポートします!

三重に暮らす・旅するWEBマガジン

■ OTONAMIE

otonomie 14,500フォロワー突破!
mail: otonamie@gmail.com tel: 059-268-3538 (壽印刷工業株式会社)

お寺とともに
地域をつくる。

永田文昌堂

最新刊

曇鸞の浄土仏教思想論

武田 龍精著

定価2,530円(税込)

鏡如上人(大谷光瑞)及び籌子裏方年譜

赤松 徹真編

定価15,400円(税込)

曇鸞浄土仏教が大乗仏教思想に与えた影響と思想史的意義を考察する。主な内容として、浄土論と往生論との解釈的関係・救済論成立の根拠・底流にある他力的哲理・曇鸞・道統・善導における仏身論の比較思想論など。

本年譜は、本願寺教団の管長・宗主として多角的な視野と構想により教団を統率・運営し、内閣顧問などにも就任した鏡如上人(大谷光瑞)と、總裁として各地の佛教婦人会の結成や活動に尽力した籌子裏方の事績を編纂したもの。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■TEL 075-371-6651 ■FAX 075-351-9031

報恩講説教一覧表（令和八年一月）

	じんちょう 晨朝（午前7時）	にっちゅう 日中（午前10時30分）	たいや 速夜（午後2時） 9日のみ（午後12時30分）	しょや 初夜（午後4時30分）	たいこうどう 大講堂（12時30分）
9日 (金)			田中 唯徳 鈴鹿市 欣念寺衆徒 律師 助教	佐藤 弘道 津市 浄徳寺住職 中僧都 証義	
10日 (土)	松山 智慧 鈴鹿市 隨願寺副住職 律師	真置 信海 松阪市 法性寺副住職 權少僧都	水谷 忍英 鈴鹿市 本照寺住職 律師	里榮 秀教 鈴鹿市 法林寺住職 權中僧都 証義	島 義厚 大阪市 聖賢寺住職 權中僧都 証義
11日 (日)	吉尾 真祐 大阪市 大乘寺副住職 律師	戸田 栄信 岡崎市 浄泉寺衆徒 權大僧都 擬講	浦井 宗司 鈴鹿市 深藕寺住職 權大僧都 証義	富田 健自 鈴鹿市 福萬寺住職 律師	松田 信慶 和歌山市 崇賢寺住職 權大僧都 輔講
12日 (月・祝)	北畠 心淳 鈴鹿市 称名寺副住職 律師 助教	藤浦 弘導 鈴鹿市 浄国寺住職 權中僧都 証義	芳川 賢史 津市 報恩寺住職 中僧都 擬講	佐波 真教 多気郡 明通寺住職 權大僧都 輔講	安藤 純海 岡崎市 蓮珠寺住職 律師
13日 (火)	三井 蓮孝 名古屋市 蓮教寺住職 權中僧都 証義	千草 篤昭 津市 善休寺住職 少僧都	大河戸悟道 豊橋市 正太寺住職 律師	隆 妙灑 四日市市 浄福寺住職 律師	中村 宜成 四日市市 光輪寺住職 權中僧都 証義
14日 (水)	松谷 慧光 四日市市 中山寺衆徒 大律師	田中 明誠 鈴鹿市 欣念寺住職 權中僧都 証義	岡 知道 四日市市 立法寺住職 少僧都 証義	栗廻 隆興 四日市市 誓覺寺住職 權中僧都 証義	島 義恵 岡崎市 聖洞寺住職 權大僧都 擬講
15日 (木)	栗真 光暉 津市 善行寺副住職 權中僧都 証義	御 親教	金森 顕宏 大野市 専福寺住職 權大僧都 証義	戸田 惠信 岡崎市 浄泉寺住職 中僧都 証義	花山 光瑞 明和町 過接寺前住職 少僧都
16日 (金)	生桑 崇等 津市 来照寺衆徒 權中僧都 証義	藤井 徳雄 鈴鹿市 了性寺住職 中僧都 証義			安田 真源 京都市 安立寺住職 權中僧都 証義

特別講演（如来堂 午前9時）

13日 (火)	①松山智道 鈴鹿市 隨願寺住職 權中僧都 輔講
------------	-------------------------------

14日 (水)	②藤田正知 津市 延命寺衆徒 權中僧都 擬講
------------	------------------------------

復演（御影堂 御親教後）

15日 (木)	栗原 廣海 四日市市 誓元寺住職 權中僧都 鑑学
------------	--------------------------------

2026年お七夜予定表

1月9日 (金)	09:00 高田学苑参拝 17:40頃 専修寺お七夜竹あかり 点灯式
1月10日 (土)	15:30 お七夜おたのしみ布教大会（大講堂）
1月11日 (日)	13:00 お七夜子ども大会 13:00 お七夜高田派青年会 15:30 お七夜おたのしみ布教大会（大講堂）
1月12日 (月・祝)	09:30 はたちの集い受付（宗務院） 15:30 お七夜おたのしみ布教大会（大講堂）

■専修寺お七夜竹あかり

境内にて：1月9日～15日 16時30分より 19時閉門
(15日は23時30分閉門)
子ども竹あかりを同時点灯いたします。(9日のみ17時40分頃点灯式)

■お七夜献書展

大玄関廊下にて1月9日より16日

1月13日 (火)	09:00 特別講演（如来堂）① 11:00 責任役員会受付（御影堂前） 13:00 お七夜婦人連合会（御影堂）
1月14日 (水)	09:00 特別講演（如来堂）② 10:00 他山御焼香（御影堂） 13:30 お七夜坊守会受付（宗務院）
1月15日 (木)	11:50 法主賞授与式（御影堂） 12:30 国宝御影堂特別拝観（御影堂 13:30まで） 16:30 お七夜婦人連合会初夜参詣（御影堂） 19:00 白塚念佛講（御影堂） 23:00 後夜
1月16日 (金)	09:00 御参廟

■ののさまをえがこう展

御対面所にて1月9日より16日

■雲幽園見学

1月9日より16日 10時・13時
茶所受付（ただし9日は13時、16日は10時のみ）

■宝物館 お七夜特別展観『高田のはじまり ふたつの専修寺』

宝物館燈炬殿にて：お七夜期間中 1月9日～16日（最終入館15:30）

観覧料：一般1,000円（団体900円）、中高生500円（団体400円）、小学生以下無料 ※ 団体10名以上

※ 特別展観は令和8年2月15日まで開催いたします、詳しくはHPをご参照ください

こんな行事がありました

法話発表会

九月四日には法話発表会がありました。聴聞者は真剣な法話発表にうなづいていました。



得度・住職拝命

十月十日、得度は三名、住職拝命は五名でした。布教に携わる決意あらたに、三重はもとより東京や福井などから臨まれました。



三重県仏教保育協会合同参拝

九月十九日には三重県仏教保育協会合同参拝がありました。

子どもたちが卒園までにきちんと手を合わせ「なもあみだぶつ」とお念佛ができる子に育つてほしいという「育て仮の子」の願いをもとに、仏教保育合同参拝は行われます。恒例の風船上げも行われ、子どもたちの元気な大歓声に包まれていました。昨年は愛知県岡崎市まで飛んで行きました。

教学院研究発表大会

十月十六日に開催された「第77回檀信徒研修会」では「すぐに分からなくとも、自己と深く向き合い「智慧」に触れる入り口となつた」「南無阿弥陀

仏をとなえたら良いだけの宗教ではない」「深い理解のきっかけとなつた」「僧侶や他の参加者との対話が有意義だった」との声をいただきました。



檀信徒研修会

納骨堂法会、秋法会、
資堂講法会

十一月三日・四日に納骨堂法会、その後五日から十日まで秋法会、八日から十日まで資堂講法会が勤まりました。

納骨堂法会の御参廟は如来堂からの行列で始まり、親鸞聖人の墓所である御廟、納骨堂、第二納骨堂を参堂し、最後に御影堂でお勤めします。亡き人を縁として念佛にでいい、今を生きる私を見つめ直す法会ともいわれています。死生観が急速に変化している現代においても、多くの参拝者に恵まれました。また境内の休憩所では納骨堂法会が行われました。



御参廟の様子

十月三十一日、教学院の主催する研究発表大会が高田会館ホールにて開催されました。講師は鈴鹿大学の川又俊則先生で「持続可能な寺院をめざして」という題でお話しいただきました。様々な宗教法人の活動や統計データを通した内容は、今後の寺院運営において重要な問題提起の時間となりました。

十一月九日、初参式がありました。

乳幼児の初めてのお寺参りのことでの法主殿臨席のもと、仏の子として阿弥陀さまにご挨拶をする姿に、笑顔が広がりました。



法主殿にも祝福されて

お七夜期間中に御対面所にて園児たちの描いた、元気いっぱいなほとけさまの作品展「ののさまをえがこう展」が行われます。どうぞお誘いあわせの上お越しください。

■高田本山講員募集■

高田本山では、本山行事等にお世話いただく講社の講員さんを募集しております。講社とは檀信徒で構成する本山奉仕団体です。真宗のみ教えを学びながら、第2の人生を本山にご奉仕してみませんか。

募集要項・奉仕内容

講社名	奉仕内容
御飯講	毎朝の御仏飯のお世話・お非時のお世話・宿坊のお世話・両堂警備
御廟講	納骨に関するお世話・行列のお世話
賽銭講	両堂のお賽銭の管理・両堂警備
用度講	行列のお世話・お非時のお世話・宿坊のお世話・両堂警備

※高田本山内で当番制のご奉仕となります。

※9:00～15:00（講によって奉仕時間が異なります）

※高田派の寺院に所属する檀信徒に限ります。詳細は下記へ問い合わせ下さい

問い合わせ先 〒514-0114 津市一身田町 2819
真宗高田派本山宗務院 ☎(059) 232-4171



お七夜でお楽しみください

次回のお七夜でも「専修寺お七夜竹あかり」が開催されます。幼稚園・保育園はじめ小中高生、老人ホームの皆様や協賛の作品が一斉に境内を彩る様子に、問い合わせも増えてまいりました。前回の様子は高田本山のホームページからご覧いただけます。



■専修寺お七夜竹あかり

世界中の多くの方々と仏縁を結ぶために、高田本山ではYouTube「専修寺チャンネル」をはじめ様々なデジタル技術を活用しています。国宝彫刻群などを動画などで紹介する「高田本山デジタルブック」もございますので、どうぞアクセスください。

YouTube
専修寺チャンネル



寺院名

● 防火訓練

- ・お七夜竹あかり
- ・お七夜献書展
- ・ののさまをえがこう展

法会・行事案内

● 修正会
報恩講

- ・お七夜高田派青年会
- ・お七夜子ども大会
- ・はたちの集い
- ・責任役員会
- ・お七夜婦人連合会
- ・お七夜坊守会
- ・お七夜婦人会初夜参詣
- ・専修寺竹あかり
- ・お七夜献書展
- ・ののさまをえがこう展

一月一日～三日
一月九日～十六日
一月九日～十五日
一月九日～十六日
一月十三日
一月十一日
一月十二日
一月十三日
一月十四日
一月十五日
一月十九日～三日

